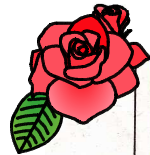
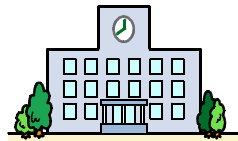


あむーる

島根県立松江北高等学校
第3学年 八幡英語通信
2016年6月30日発行
第11号

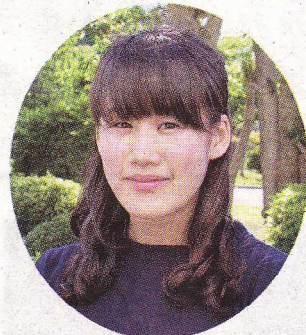
No.11

先輩は語る <11>



インパス

人間科学部 初等教育学科 4年
梶 ひとみさん(21) (島根県立松江北高出身)

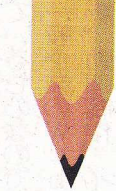
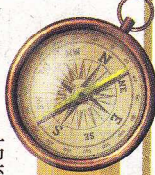


伝授していただく場があり、参考になりました。先生方のサポートも手厚く、困った時はいつでも支えてくださいます。そして共に夢に向かって切磋琢磨し合う仲間の存在はとても大切ですね。このようなつながりこそ文教の魅力だと思います。

つながりの深さが魅力

高校時代に信頼していた先輩が、現場に生かされます。生の薦めで、広島文教女子大学を選びました。入学すると、1人1台タブレット端末が配付され、いつでもどこでも授業内容が確認できます。就職課程の模擬授業でも効果的に用いること

先輩教えて!!



—『山陰中央新報』より

小学校教員志望の梶(とが)さんに、**広島文教女子大学**を薦めたのは僕ですが、それは北高の先輩たちの中にも、ここを卒業して小学校の先生になっている人が結構いたからです。以前、北高で英語を教えていた日比野先生のお父さんがこの大学の書道の教授で、北高の卒業生も可愛がってもらいました。僕の江南高校時代に、島根県出身の教授がおられて、よく面倒を見てもらっていました。そんな卒業生たちの



▲一番右が梶さん

話からも「面倒見のいい大学」としてインプットされていました。今も島根県出身の先生が多数おられると聞いています。偏差値レベルでいうとそんなに高い大学ではありませんが、「教育力」は優れています。2016年3月の就職率は100%です。公立小学校教員採用試験では57人が最終合格しています。昨年の島根県の小学校教員採用枠90人中、広島文教女子大学の出身が8人でした。「**大学探しランキングブック2016年版(大学通信)**」では「**教育力が高い大学**」で**西日本女子大・中四国私大で第1位**を獲得しています。「**面倒見がよい**」「**小規模だが評価できる**」と外部からも高い評価をもらっています。偏差値では見えてこない、大学の中身をしっかりと検討して大学選びをしたいものですね。☑☑☑

注意すべき2つの語法



～ **satisfactory** (満足のいく) と **participate** (参加する)

教室で形容詞 **satisfactory** が出てくると、生徒たちは「満足のいく」と訳し、相当レベルの高い満足度だと思っているようです。しかしながら、この語は評価順位に用いた場合には、否定的な意味が強く、意外に低い評価なのです。私は「普通ぐらい、まあまあ」と言っています。ネイティブスピーカーと議論すればこのことはすぐ理解できます。評価の高い順に形容詞を並べてみると、およそ次のようになるでしょう：**exceptional** → **great** → **very good** → **good** → **satisfactory** → **poor** → **bad** (デビッド・セイン先生による)

『ライトハウス英和辞典』(第6版)のgradeの項には、評価の一覧表が出ていますが(私がD.ポリンジャー博士、J.アルジオ博士、R.イルソン博士に確認してもらって作ったものです)、**A(excellent)**、**B(good)**、**C(satisfactory)**、**D(just passed)**、**E(conditionally passed)**、**F(failed)**であり、**satisfactory**は「可」です。ですからレポートを提出して、先生から“This is satisfactory.”と言われて、喜んではいけません。日本語の「満足のいく」で考えたら失敗する単語なんです。

もう一つ、**participate in**～「参加する」も、注意が必要な単語です。生徒たちは何でも「参加する」は**participate**を使いますが、ネイティブ・スピーカーたちの使い方・語感を観察していると、チョットとらえ方が違うことに気がつきます。ただ「参加する」だけではなくて、みんなの前に立って何かをするというニュアンスでとらえているようです。I participated in a seminar on financial planning.と言ったら、みんなの前で何かお話しをした、という感じですね。聞きに行っただけなら、went to a seminar/ attended a seminarと言えはいいでしょう。

なかなかこのように単語の裏に隠された意味を教えてくれる辞典はありませんね。私は若い頃から、辞典の編集の仕事をしてもらう中で、**M.アルトハウス教授(津田塾大学)**の鋭い観察の書き込みを読ませていただくことができて、ノートに取りながらずいぶん勉強をしました。最近では、**デビッド・セイン先生**の著書で多くを学ばせてもらっています。『日本経済新聞』に土曜日に不定期で掲載されているセイン先生のコラム「どんまいイングリッシュ」は、ハッとすることばかりです。共に、日本語の達人であるがゆえの気づきに満ち溢れているのです。みなさんも読んでごらんになったら面白いと思いますよ。セイン先生の本はたくさん図書館に入れてありますからどうぞ。

